

令和3年度 第32回 全九州選抜高等学校バレーボール大会

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

【出場チーム用】

【感染防止対策】

1 基本的事項

- (1) 三つの「密」を回避する
- (2) 身体的距離を確保する
- (3) 手洗いを徹底する
- (4) マスクの着用を徹底する
- (5) 換気に留意する

2 大会参加者に関する事項

- (1) 次の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせること
 - ア 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ウ 直近 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- (2) マスクを準備すること（受付や着替え等の競技を行っていない時、また会話をする際には、マスクを着用すること）
- (3) こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を行うこと
 - ア 入館・退館時
 - イ 食事の前後
 - ウ トイレの後
 - エ 競技後など
- (4) 他の参加者との距離を確保すること（できるだけ2 m以上）
（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）
- (5) 感染拡大防止策のために、大会本部が決めたその他の措置を遵守し、大会本部の指示に従うこと
- (6) 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、大会本部に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること
- (7) 大会参加者は、以下の事項を記載した書面の作成と提出をすること（健康チェックシート）
 - ア 健康チェックシート（大会当日の体温、大会前2週間における以下の事項の有無
 - ・平熱を超える発熱
 - ・咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状、嗅覚や味覚の異常
 - ・体が重く感じる（だるさ、倦怠感）、疲れやすい、息苦しい（呼吸困難）等
 - ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - ・同居家族や身近な知人の中で感染が疑われる方の有無
 - ・直近 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触の有無

イ 入館の際は、受付→ID 交付→手指の消毒→検温→健康管理シートの提出を実施する

ウ 原則 37.5 度以上の場合に入館しないこと。非接触式体温計で当初 37.5 度以上あった場合は、10 分以上開けて再検温する。必要があれば接触式体温計でも検温する。

- (8) 飲食を行う場合は、フィジカルディスタンスを保ち、黙食に努めること。また、向かい合っ
ての食事は可能な限り控えること
- (9) 食事後は必ず、その付近の消毒を行うこと。また、食べ終わったゴミは放置せず、必ず持ち帰
ること

3 出場チーム、選手に関する事項

- (1) 競技場（フロア・観客席）へ入場できるのは、チームスタッフ最大 3 名（監督・コーチ・マ
ネージャー）、登録選手最大 14 名、サポートスタッフ最大 6 名（生徒・トレーナー）とする。
- (2) 該当する試合以外のフロアへの入場は禁止とする（補助役員の場合は補助役員のみ入場可）
- (3) 該当する試合では練習補助（球拾い等）としてフロアに入場できるのは、サポートスタッフの
最大 6 名とする。6 名の待機場所を会場フロア内に準備する
- (4) 試合開始時、終了後は競技役員（係員）の指示で移動すること
- (5) 各チームで会場に持ち込む用具（練習球・トロリーなど）は、使用前後で必ず消毒を行うこ
と
- (6) 試合への出場選手以外は、チーム関係者全員がマスクを着用すること。ただし、自身の感染
リスクや他の選手に配慮してコート内の選手がマスクを着用することは認める
- (7) タオルの共有やドリンクの回し飲みは絶対に避けること
- (8) チーム内で出たゴミは必ず持ち帰ること。ただし、大会本部を通して申し込みをした弁当ガ
ラの処分は指示に従うこと
- (9) 試合終了後は、使用したベンチの消毒に協力すること。消毒に必要な物品は大会本部が準備
する。
- (10) ベンチ内、ウォームアップエリア内では身体的距離を確保すること
- (11) ベンチ内、ウォームアップエリア内では不要な会話・接触を避けること
- (12) 補助役員（ラインジャッジ）を行う場合は、マスクを着用すること。また、使用前後にフラ
ッグの消毒を行うこと
- (13) 補助役員（点示）を行う場合は、マスクを着用すること。また、大会本部が準備する手袋を
着用すること
- (14) 補助役員（スコアラー）を行う場合は、マスクを着用すること。また、大会本部が準備する
筆記用具を使用前後に消毒すること（筆記用具は私物を使用することも可。その場合は青のポ
ールペンが望ましい）。フェイスシールドの着用も認める
- (15) マスク着用による水分不足に注意し、こまめに水分補給をすること
- (16) 試合前のトス時、キャプテンと審判間のあいさつや試合前後の握手は行わない。アタックラ
イン上で一礼すること
- (17) 試合前の円陣や、陣地での集合時においてもできるだけ密集・接触を避けること
- (18) 可能な限り競技中のハイタッチは避け、腕のタッチにとどめること
- (19) 可能な限り競技中は靴底を手でさわらないこと

4 観客に関する事項

観客は無観客とし、競技場内への入場は認めない

5 式典等に関する事項

- (1) 開会式、閉会式は実施しない
- (2) 表彰は優勝、準優勝、3位を表彰するが、コート表彰とする
- (3) 代表者会議への出席は各チーム2名以内とする

【感染者が発生した場合の大会出場基準】

1 感染者、濃厚接触者等の定義

- (1) 感染者とは、医療機関による診断の結果、感染者と判定された者。なお、感染者の発生日とは症状が出始めた日とし、発生日が不明な場合は陽性と判定された検体採取日とする
- (2) 濃厚接触者とは、所轄保健所の判断とする。なお、濃厚接触者の発生日とは感染者と接触した日とする
- (3) 体調不良者とは、発熱（37.5度以上）や風邪症状（咳、のどの痛み）、だるさや息苦しさ、味覚や嗅覚の異常などがある者

2 基本的事項

- (1) 万が一感染者等（感染者、濃厚接触者、体調不良者）が発生した場合は、発生の時期や場所等にかかわらず、医療機関へ相談・受診すること。その診断等の結果により、必要に応じて保健・衛生機関の指示等に従うこと。また、大会本部へ報告すること
- (2) 個人情報の取り扱いについては十分に注意すること。感染のリスクは誰にでもあることであり、新型コロナウイルス感染症に感染した人への誹謗中傷や不当な差別、偏見、いじめ等がないようにすること
- (3) 体調を偽って報告することや感染に関する情報を隠す等がないようにすること

3 感染者等発生時の大会出場基準

- (1) 出場チーム、選手、大会役員、観客、関係者等並びに社会の安全を優先するが、出来る限り試合ができるよう最大限努力する
- (2) 感染者等はただちに自主隔離をする。出場チームは医療機関へ相談・受診をすること。その診断等の結果により、必要に応じて所轄保健所の指示等に従うこと
- (3) 大会前、大会期間中に感染者等が発生した場合
 - ア 感染者は治癒するまで出場不可とする。チームは所轄保健所による濃厚接触者の特定がされるまで出場不可とする
 - イ 特定された濃厚接触者は医療機関による診断とPCR検査の結果「陰性」となるまで出場不可とする。「陰性」の場合、感染者、濃厚接触者、37.5度以上の発熱等の症状がある者以外は出場可とするが、参加判断については医療機関等の指示を遵守したうえで、出場チームの責任において行うこと
 - ウ 体調不良者は医療機関の診断により判断する。ただし、原則37.5度以上の発熱等の症状がある場合は出場不可とする。また、感染者、濃厚接触者となる場合は前記（3）ア、イのとおりとする
- (4) 大会終了後2週間以内に感染者が発生した場合は、大会本部に報告すること
- (5) その他、不測の事態が生じたときは大会本部で対応を検討する